



2024年3月期

決算説明資料

2024年5月31日

東証スタンダード

7927

ムトー精工株式会社



01	会社概要	02
02	特長・強み	09
03	中期事業戦略	15
04	2024年3月期業績	23
05	2025年3月期業績予想	29
06	Appendix	34

会社概要

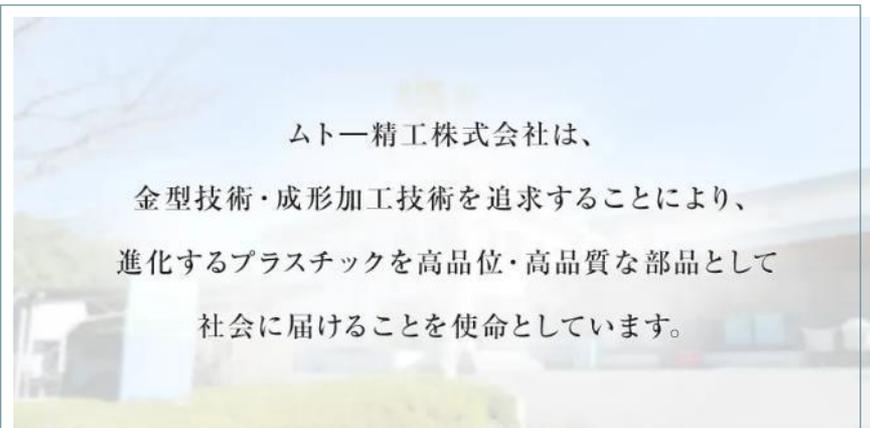
01

会社概要

プラスチックの無限の可能性を世界にお届けします

会社名	ムトー精工株式会社
本社	岐阜県各務原市
創業	1956年6月
上場市場	東京 スタンダード市場上場(7927)
事業内容	プラスチック成形用金型及びプラスチック精密部品の製造・販売 精密プレス部品の製造・販売 各種設計業務並びに技術支援 プリント配線基板の設計・検査・販売
セグメント	プラスチック成形事業・精密プレス部品事業・プリント基板事業(3セグメント)
従業員数(連結)	3,126名 (2024年3月31日現在)

会社方針



ムトー精工株式会社は、
金型技術・成形加工技術を追求することにより、
進化するプラスチックを高品位・高品質な部品として
社会に届けることを使命としています。



Purpose

事業目的

プラスチックの持つ無限の可能性を形にして
社会に届ける

Value

重きをおく価値観

1

品質と技術をベースにした
進取のモノづくり

2

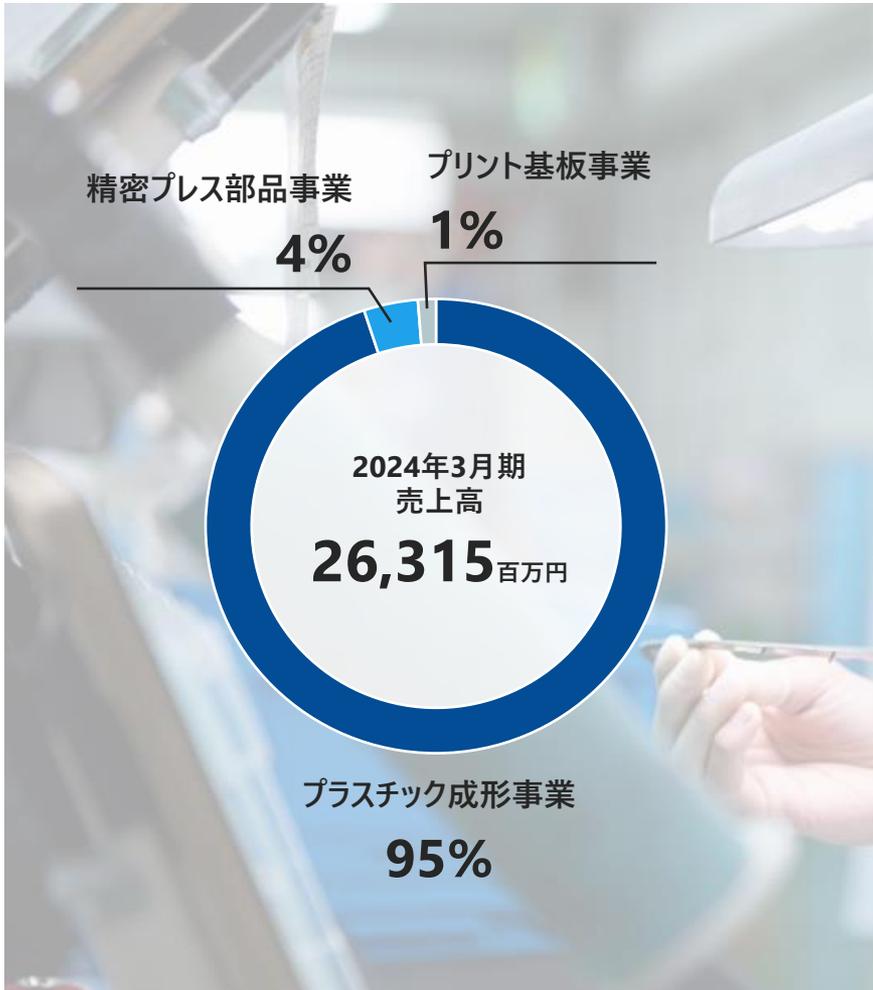
顧客と社会への
責任と貢献

3

多様性と
快活な社風

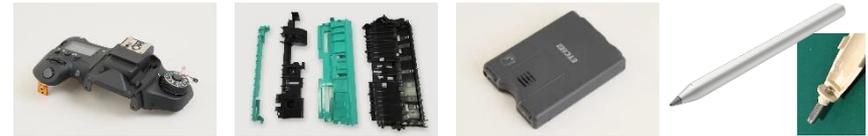


売上構成



プラスチック成形事業

デジタルカメラ・ビデオカメラ等のデジタル家電、カーナビゲーション・エアコン・オーディオを含むセンターパネルユニット、E T C等の自動車関連機器及び電子ペンの製造・販売、それに伴う金型の製造・販売及び各種設計業務並びに技術支援



精密プレス部品事業

音響機器、映像機器、光学機器、コンピュータ関連機器等の精密プレス部品の製造・販売

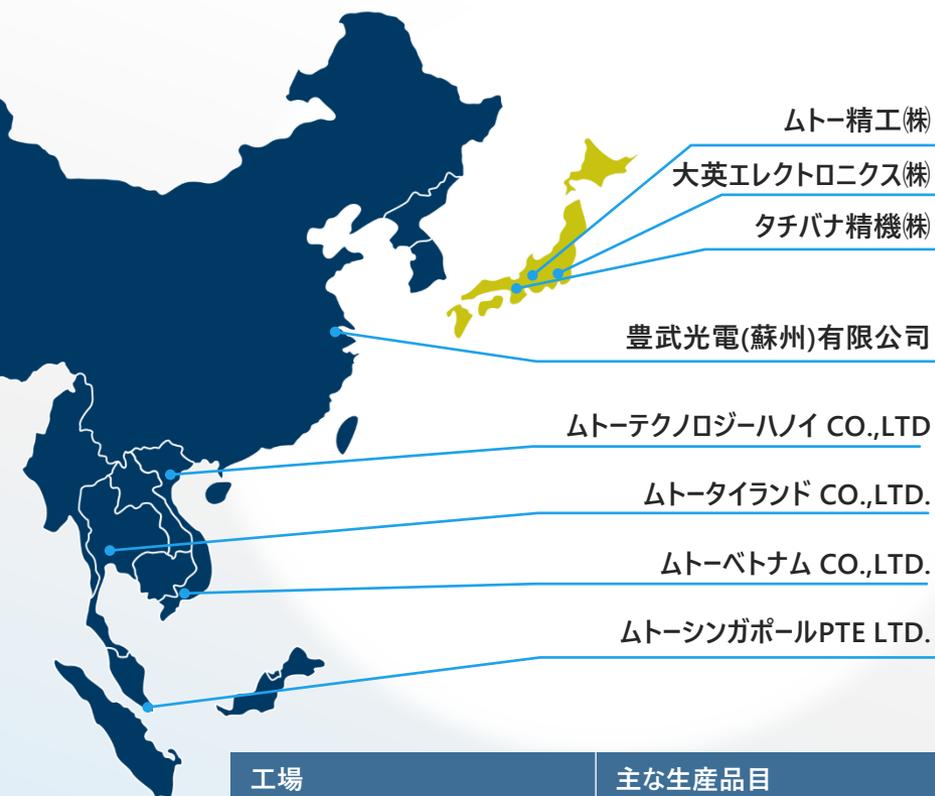


プリント基板事業

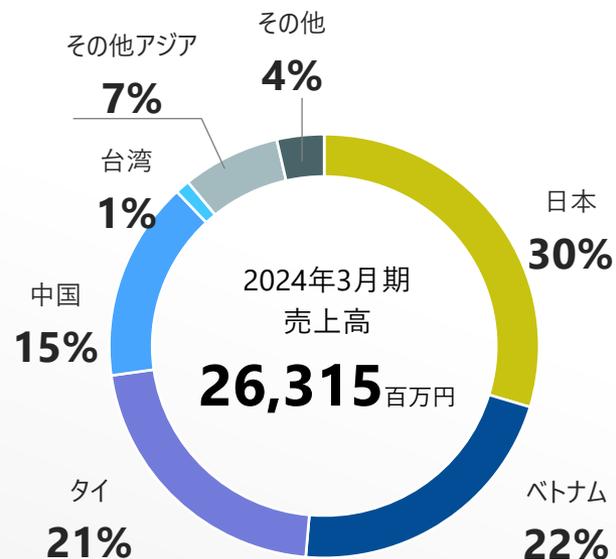
プリント配線基板の設計・検査・販売



- 日系企業の工場が多い地域に製造・販売拠点
- 海外工場も金型製作設備を保有し、金型設計・製作から樹脂成形までの一貫生産



地域別売上高



工場	主な生産品目
ムトー精工（本社・岐阜）	車載部品
ムトーベトナム	カメラ部品、車載部品、ヘルスケア部品
ムトーテクノロジーハノイ	プリンター部品、車載部品、住宅設備関連部品
ムトータイランド	カメラ部品、車載部品、プリンター部品
豊武光電（蘇州）有限公司	カメラ部品、電子ペン、車載部品

主な納入先	
デンソー	東海理化
ワコム	パナソニック
ソニー	キヤノン等

- 国内外の各工場で自社製作の金型を用いて射出成形して出荷するだけでなく、二次加工や組立にも対応



金型の設計・製作から樹脂成形までの一貫生産

顧客企業（国内・海外）

相談

提案・販売

金型

金型レイアウト・設計



金型製造



生産

射出成形

タテ型成形

ヨコ型成形

インサート成形

二色成形

成形



二次加工

レーザー

蒸着

塗装

印刷

組立



検査



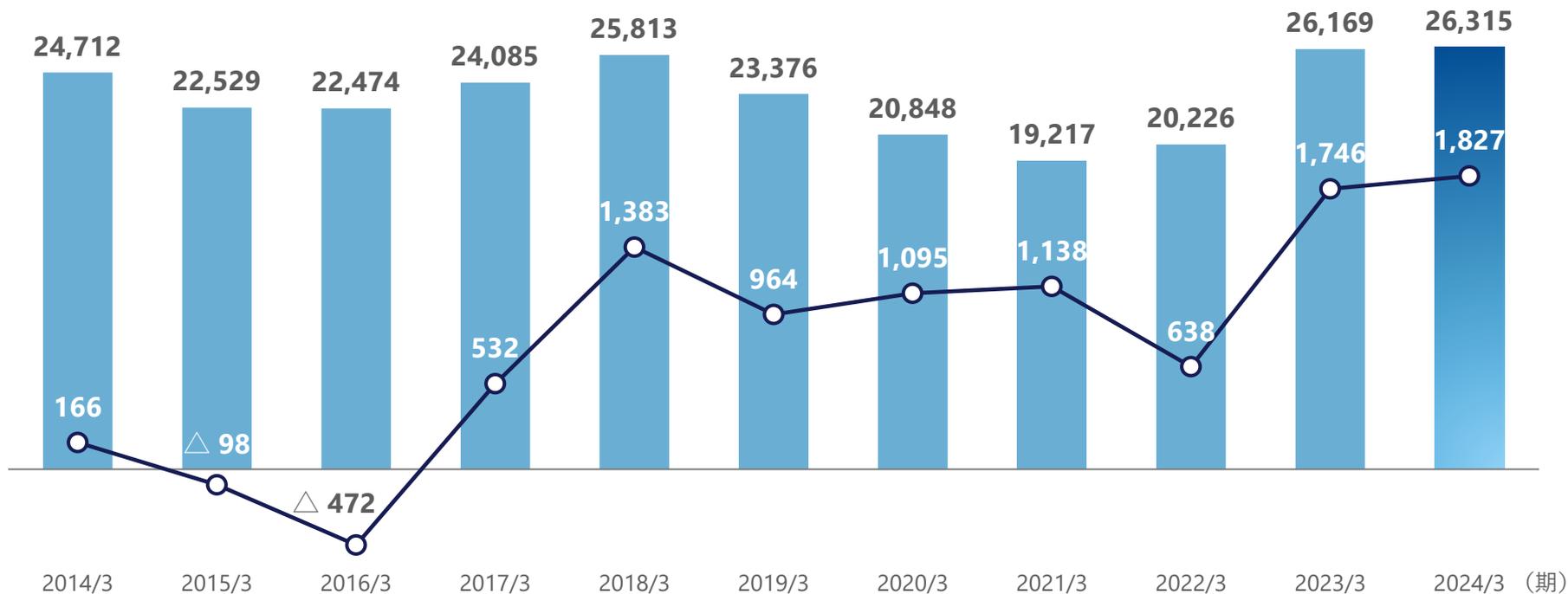
出荷

- コロナ禍の影響を脱し、2023年3月期、2024年3月期ともコロナ前を上回る売上高、営業利益となった
営業利益率もコロナ前の5%前後から24年3月期は7%へ上昇
- 2017年3月期からタイ工場も黒字転換、海外工場の省人化・省力化などの生産性改善が進み、利益率も上昇

売上高と営業利益推移

■ 売上高 ○ 営業利益

単位：百万円



特長・強み

02

①金型設計・製作の技術力

- 日本・ベトナム（ホーチミン・ハノイ）・タイ・中国のアジア5拠点で金型を設計・製作
- 顧客企業の製品設計者が金型製作を依頼したい企業となることで成長



②樹脂成形のノウハウ

- 7トン～460トンの樹脂成形機を約560台保有、二色成形、インモールド成形、インサート成形などのできる技術力を持つ
- 各種自動化設備を自社開発し、成形時のノウハウを囲い込み

樹脂成形機を約560台保有

樹脂成形機を国内外6拠点に約560台保有
顧客工場に近い拠点で樹脂成形品を出荷



インサート成形

樹脂部品の成形と一緒にヒンジやねじ穴など
金具も一体成形、顧客の樹脂部品の精度向上
や納期短縮に貢献



各種自動化設備を自社開発

樹脂部品に金具を挿入・取出しをする取出機など
を自社開発しノウハウを囲い込み

成形+αの
付加価値を提供

外観検査の自動化

AIを活用し、成形後の樹脂部品の外観検査を
自動化
作業者の負担軽減と不良品出荷率を引き下げ



二次加工

成形した樹脂部品に蒸着・印刷・レーザー等で
スイッチのマークなどを加飾



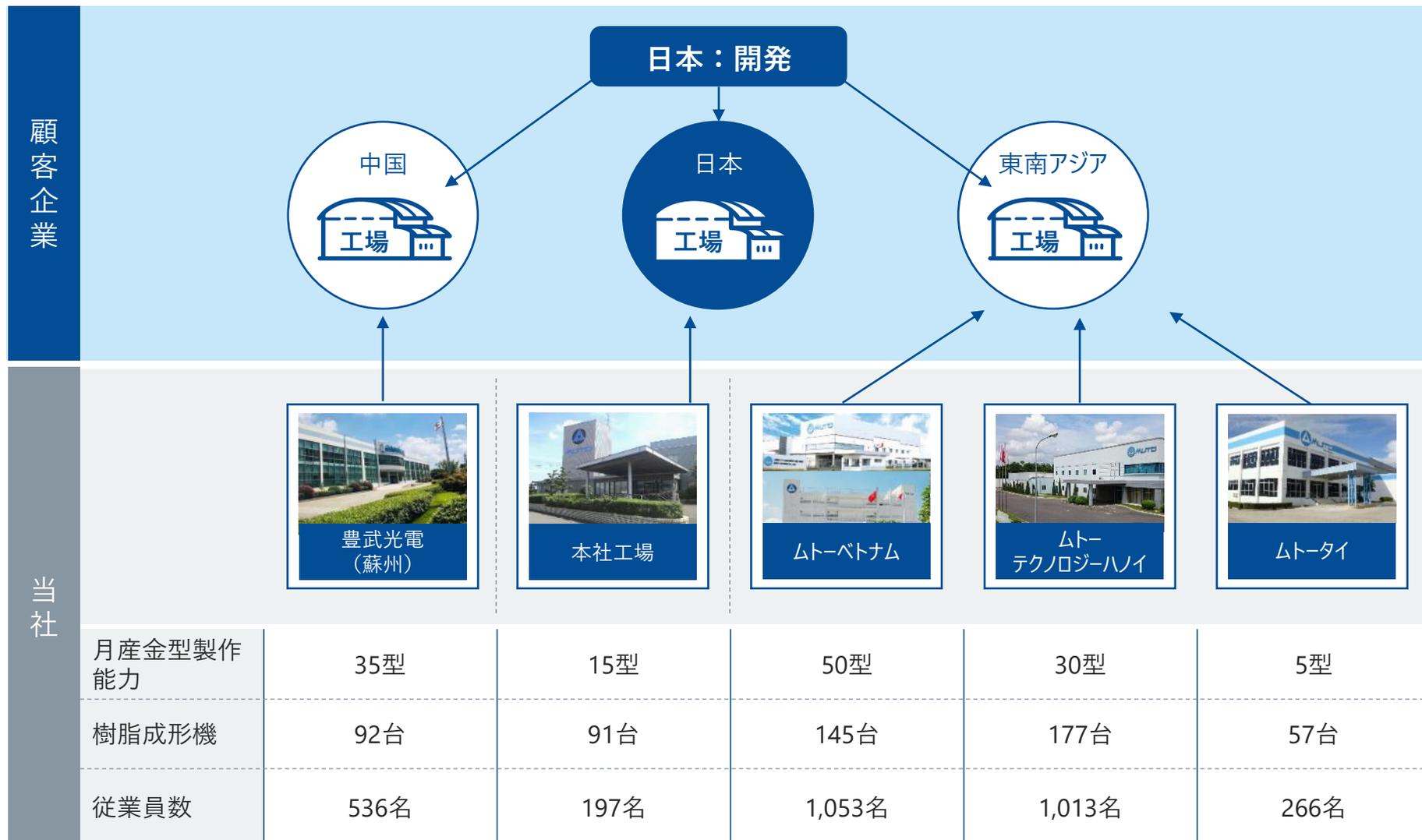
③金型製作から樹脂成形までの一貫生産



注：規模はいずれも当社グループの数値

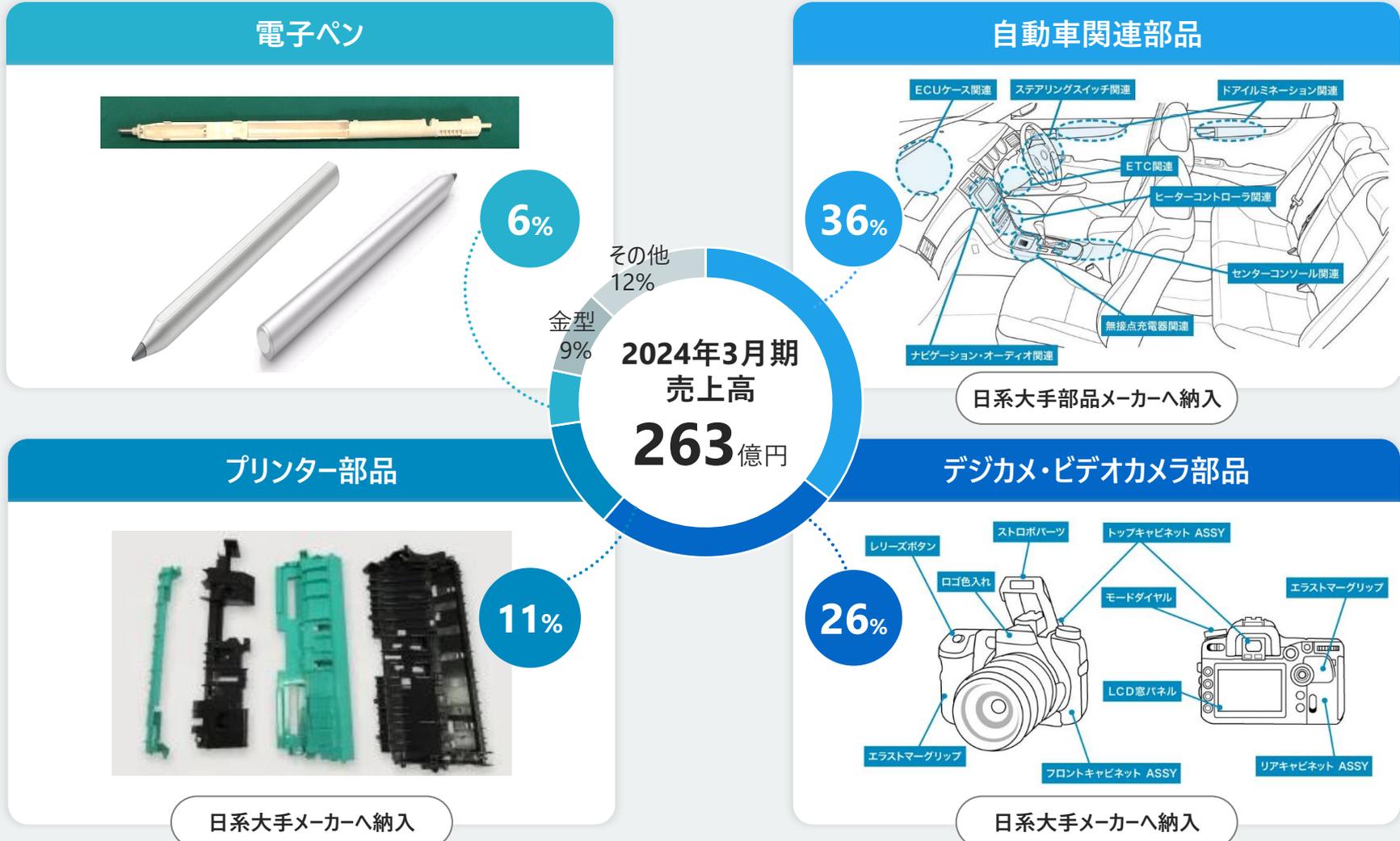
④顧客の工場に近いところで生産

- 日本、ベトナム、タイ、中国に工場を持ち、それぞれの工場が金型製作から一貫生産
- 現地の工場から顧客工場へ直接納品し、顧客企業のサプライチェーン短縮に貢献



⑤ バランスの取れた顧客基盤

- 日系大手企業向けを主力に、自動車関連、デジタルカメラ・ビデオカメラ、プリンター、電子ペンなどの樹脂部品を販売
- 金型からの一貫生産による高品質、グローバル展開による納期対応力などが顧客から評価



中期事業戦略

(2024年3月期～2026年3月期)

03

数値目標

営業利益 「20億円超」を目指す

ROE 「10%以上」を維持する



1 顧客基盤の拡大

重要ファクター

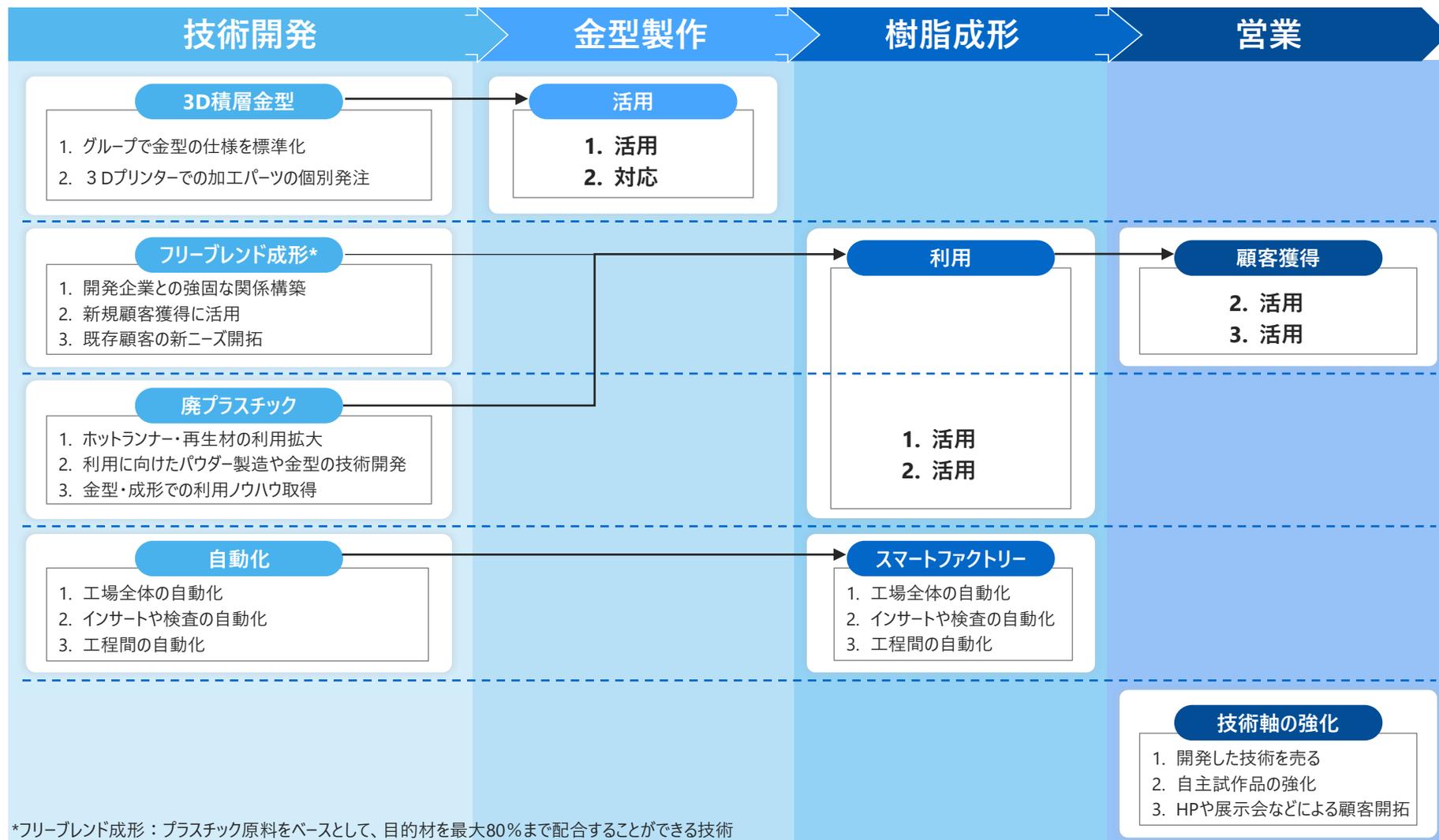


2 施策を実行するスピード



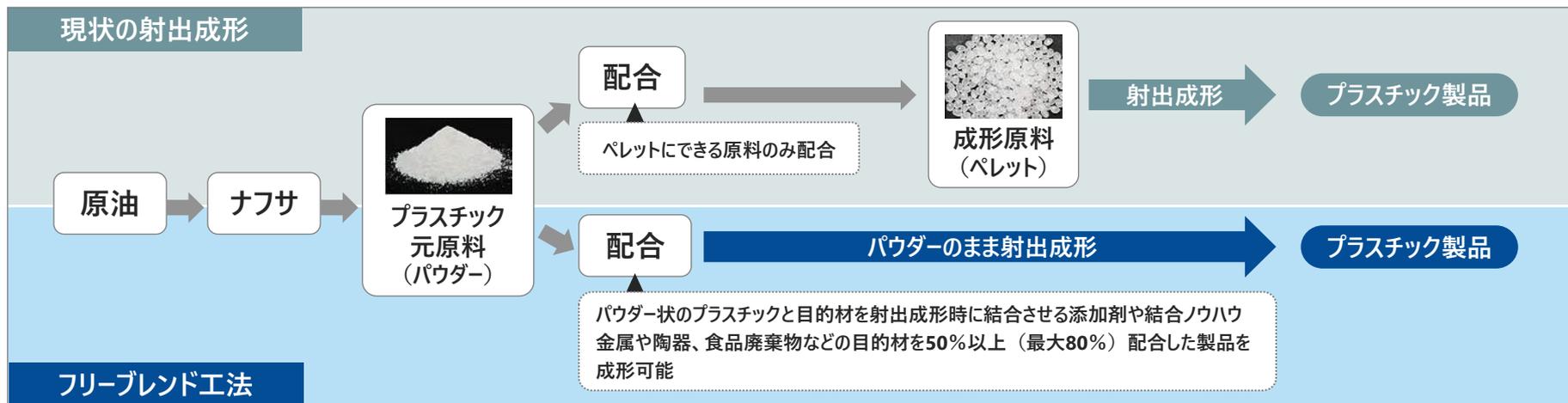
3 積極的な設備投資・人的投資

- 3Dプリンターの活用、廃プラスチック利用やフリーブレンド成形*による既存顧客のニーズ開拓と新規顧客開拓
- スマートファクトリー実現による生産性向上



*フリーブレンド成形：プラスチック原料をベースとして、目的材を最大80%まで配合することができる技術

- フリーブレンド工法の特許を持つ(株)第一精工舎と業務提携
- (株)第一精工舎から製造を受託し、新たな素材のプラスチック製品について量産を開始、工法技術の共同開発も進める
- フリーブレンド工法はプラスチックと目的物（廃棄物等）をパウダー状のまま射出成形するため、多様な材料の配合が可能



フリーブレンド成形の特徴



環境に優しい（捨てずに使う）

食品廃棄物（粃殻・牡蠣殻等）や木片・陶器・ガラスなどの廃棄物を配合したプラスチック製品を成形可能

加工とデザインの両立

鉄やチタン、陶器など加工の難しい材料を使った複雑なデザインの製品を、高い質感を維持したまま、低コストで量産可能

機能性の向上

ガラス繊維による強度向上や、銅による殺菌機能など、新たな機能を付加したプラスチック製品の量産が可能

フリーブレンド成形での両社の強み



- 射出成形用金型の設計・製作技術
- 大量生産できる生産能力



- 目的材の特性に応じた添加剤や成形ノウハウ
- 射出成形機

- 工場・バックオフィスのDX化の推進
- 工場における受発注・生産・在庫管理等を行う基幹システムのリニューアル（2026年3月期末に稼働予定）

工場

- 基幹システムのリニューアル
- 品質保証・立ち上げ業務のDX化
- 金型図面の電子化

バックオフィス

- ペーパーレス化の徹底
- 許可・承認・記録行為の電子化
- 人事・労務・経理・管理業務のDX化

全社共通

- DXに対応するPCスペック（ハイパワー・軽量・ワイヤレス）
- タブレット・スマートフォン・QRコードの利用環境整備

- コンプライアンス研修等によりコンプライアンス意識を社内に浸透させる
- 環境対応や人的資本の充実に向けた環境整備も実施

テーマ	取組内容	施策
コンプライアンス		
	啓蒙活動	法令遵守・ハラスメント等の研修継続
	定着	法令遵守・ハラスメント等の対応策の維持・継続
環境		
	カーボンニュートラルに向けた取り組み	ロードマップの作成とそれに基づく施策の展開 老朽設備の計画的な更新によるCO ₂ 削減 CO ₂ の継続的な測定の実施 SCOPE3の算定方法の確立 対外発表促進による当社の取り組み状況の認知
	廃棄プラスチック削減	減プラスチックへの取り組み強化 環境団体への協力

テーマ	取組内容	施策
人的資本の充実		
	多様性への取り組み	社員相互の理解を深め、多様な人材が尊重され刺激し合う社風作り
	教育訓練	社員の研修制度の確立と実施 階層別研修、海外短期トレーニー制度の拡充 自己研鑽への補助制度の制定
	ワークライフバランス	社会的なワークライフバランスへの要求に対して積極的に対応
	海外グループ各社との交流	技術交流会の充実等
	自前主義からの脱却	アウトソーシングなど外部リソースを活用し、業務のスピードアップを図る

企業価値 最大化



品質・スピード強化

- 金型製作の品質向上により、製品設計者の評価を高め受注拡大

利益率の向上

- インサート成形など付加価値の高い製品の販売強化

在庫圧縮・工場の効率化

- 基幹システムのリニューアル
- 各務原新工場稼働に伴う生産品目再編等

配当政策

- 2023年3月期から配当性向を40%へ引き上げ
- 更なる株主還元強化も検討

IR活動を強化

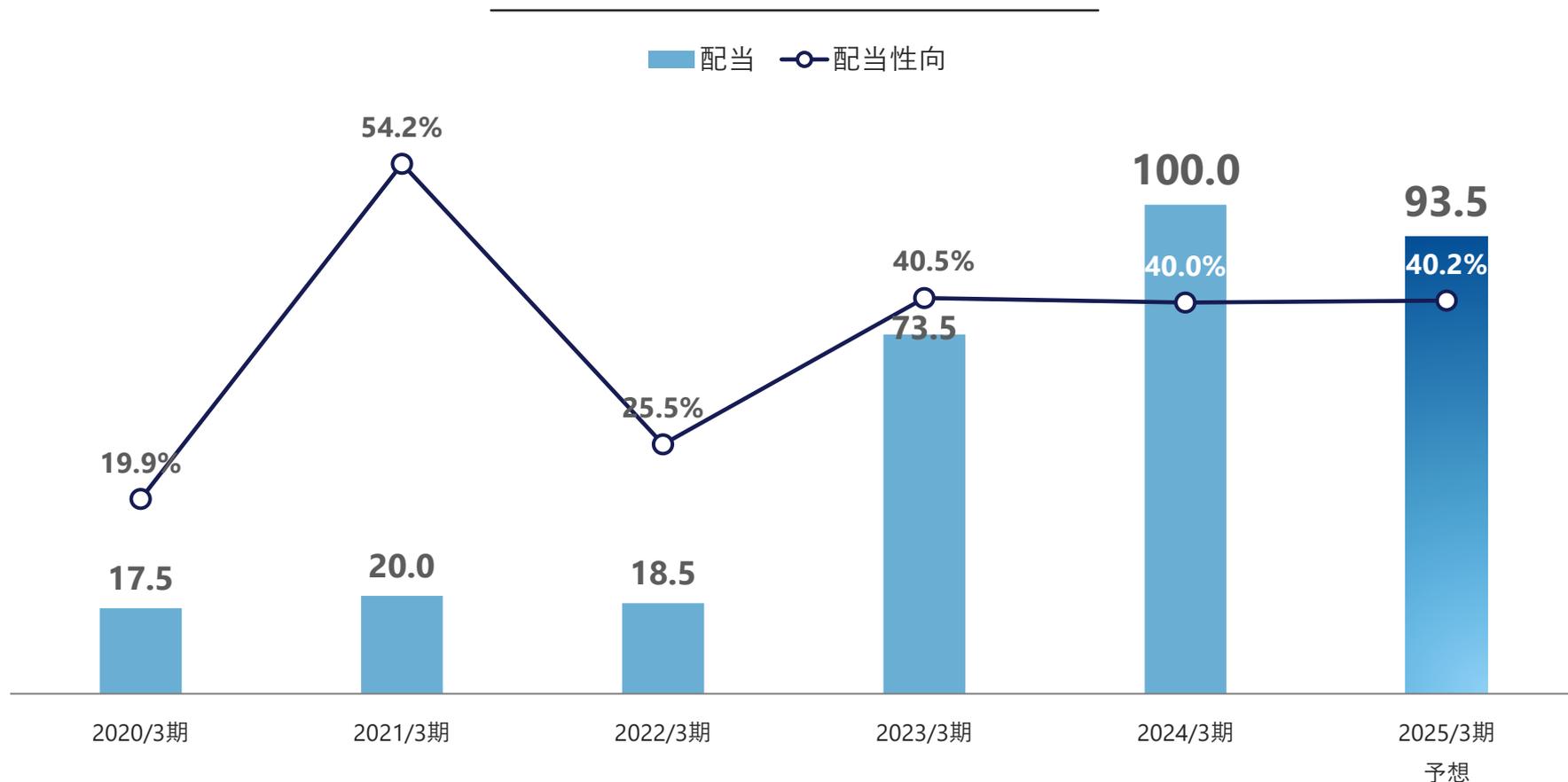
- 決算説明資料の作成や決算説明会の実施などIR活動を強化

投資家への成長戦略の浸透

- 決算説明会で中期事業戦略を説明

- 年間配当16円を安定配当とし、連結業績連動分と合わせて40%の配当性向を目標
- 2024年3月期は配当性向40%となる100.0円の配当を実施、25年3月期も配当性向40%を維持し93.5円の配当を計画

配当と配当性向



2024年3月期業績

04

2024年3月期実績

- 売上高は前期比微増の263億円と過去最高の売上高
コロナ特需の反動もありプリンター部品は減収となったが、半導体不足の影響がなくなった自動車関連部品や一眼レフカメラ部品が増収
- 増収に加えて円安メリットもあり、営業利益も5%増の18.2億円
- 為替差益の計上や特別損失の減少により、当期純利益は36%増の17.7億円
- 増益となったことにより配当も前期比26.5円増の100円（従来予想比12.5円増配）を予定
- 岐阜県各務原市に樹脂成形から一貫生産をする新工場を建設、2024年度末稼働予定

2025年3月期予想

- 売上高は2%増の267億円と引き続き過去最高の売上高を予想
自動車関連部品が堅調に推移することやプリンター部品の回復も予想するため
- 増収により営業利益も4%増の19億円を予想
- 為替差益を見込まないことから経常利益は22%減の19億円、当期純利益は7%減の16.5億円を予想
- 配当性向40%の配当方針に基づき、配当は6.5円減の93.5円を計画するが、24年3月期の従来予想を上回る配当を計画

業績概況 (PL)



- プリンター向けは減収だが、一眼レフカメラ向けの好調や自動車向けの回復により、売上高は前期比1%増収
- 増収に加えて、円安メリットもあり営業利益は5%増益となり、営業利益率も7%に上昇
- 為替差益の計上や特別損失の減少により当期純利益は36%増益、増益により配当も前期比26.5円増の100.0円へ

(百万円)	2023/3期		2024/3期				期比較	
	実績	売上比(%)	従来予想	売上比(%)	実績	売上比(%)	前期比(%)	予想比
売上高	26,169	100.0	26,200	100.0	26,315	100.0	+0.6	+0.4
売上総利益	5,014	19.2	-	-	5,282	20.1	+5.3	-
販管費	3,268	12.5	-	-	3,454	13.1	+5.7	-
営業利益	1,746	6.7	1,800	6.9	1,827	6.9	+4.6	+1.5
為替差損益	285	1.1	300	-	454	1.7	+59.3	+51.3
経常利益	2,140	8.2	2,100	8.0	2,433	9.3	+13.7	+15.9
親会社に帰属する 当期純利益	1,300	5.0	1,550	5.9	1,773	6.7	+36.3	+14.4
1株当たり純利益	181.5円		218.4円		249.9円		+37.6	+14.4
1株当たり配当金	73.5円		87.5円		100.0円		+36.1	+14.3

- プラスチック成形事業はデジタルカメラ部品や自動車部品などの回復により1%増収
- 精密プレス部品事業は医療機器部品の増収や4Qからの価格改定で19%増収、赤字も大幅縮小
- プリント基板事業は半導体基板等の受注が減少し、売上高は17%減収、営業利益も51%減益

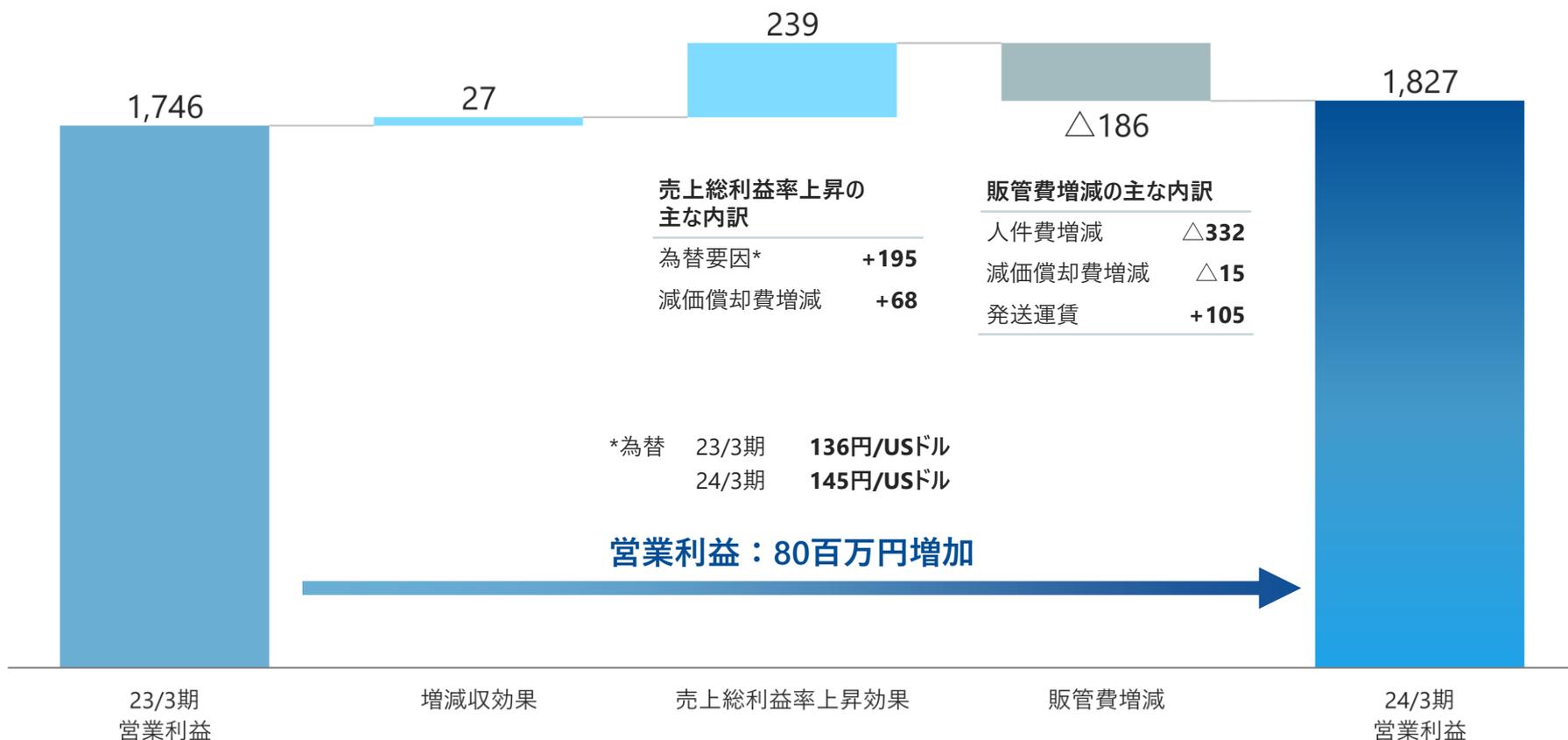
(百万円)	2023/3期		2024/3期		期比較
	実績	売上比(%)	実績	売上比(%)	前期比(%)
売上高	26,169	100.0	26,315	100.0	+0.6
プラスチック成形事業	24,947	95.3	25,008	95.0	+0.2
精密プレス部品事業	892	3.4	1,064	4.0	+19.3
プリント基板事業	398	1.5	332	1.3	△16.5
調整額	△68	-	△89	-	-
営業利益	1,746	6.7	1,827	6.9	+4.6
プラスチック成形事業	1,644	6.6	1,764	7.1	+7.3
精密プレス部品事業	△27	△3.1	△0	△0.1	-
プリント基板事業	130	32.7	63	19.2	△51.0
調整額	0	-	0	-	-

- 半導体不足の影響がなくなり、一眼レフカメラ部品や自動車関連部品が回復
- 自動車関連はカーナビ等のタッチパネル化が進んでいるが、ECUケースや二次電池カバーなどの受注が拡大
- 一方で、コロナ特需の反動によりプリンター部品や電子ペン部品は調整、金型も納入タイミングのズレから減収

(百万円)	2023/3期		2024/3期		期比較
	実績	売上比(%)	実績	売上比(%)	前期比(%)
売上高	26,169	100.0	26,315	100.0	+0.6
自動車関連部品	8,356	31.9	9,380	35.6	+12.3
ビデオカメラ部品	490	1.9	495	1.9	+1.0
デジタルカメラ部品	4,368	16.7	6,241	23.7	+42.9
プリンター部品	4,437	17.0	2,971	11.3	△33.0
電子ペン部品	1,703	6.5	1,532	5.8	△10.1
金型	3,062	11.7	2,285	8.7	△25.4
プレス部品	765	2.9	845	3.2	+10.5
プリント基板	398	1.5	332	1.3	△16.5
その他	2,586	9.9	2,230	8.5	△13.8

- 2024年3月期の営業利益は前期比0.8億円増加
- 人件費が3.3億円（為替影響を含む）増加したものの、円安や減価償却費減少等による売上総利益率の改善で吸収

営業利益増減益要因



2025年3月期業績予想

05

- 自動車関連部品が堅調に推移することやプリンター部品の回復を見込むことから、売上高は2%増収を予想
- 増収により、営業利益も4%増益と引き続き増益を予想
- 為替差益の減少などから経常利益は22%減益、当期純利益も7%減益を見込む

	2024/3期実績		2025/3期予想		期比較	
	実績	売上比(%)	予想	売上比(%)	前年比(%)	売上比増(pt)
(百万円)						
売上高	26,315	100.0	26,700	100.0	+1.5	-
売上総利益	5,282	20.1	5,350	20.0	+1.3	△0.1
販管費	3,454	13.1	3,450	12.9	△0.1	△0.2
営業利益	1,827	6.9	1,900	7.1	+4.0	+0.2
為替差損益	454	1.7	0	-	-	-
経常利益	2,433	9.3	1,900	7.1	△21.9	△2.2
親会社株式に帰属する 当期純利益	1,773	6.7	1,650	6.2	△6.9	△0.5
1株当たり当期純利益	249.9円		232.5円		△7.0%	
1株当たり配当金	100.0円		93.5円		△6.5%	

セグメント別業績予想

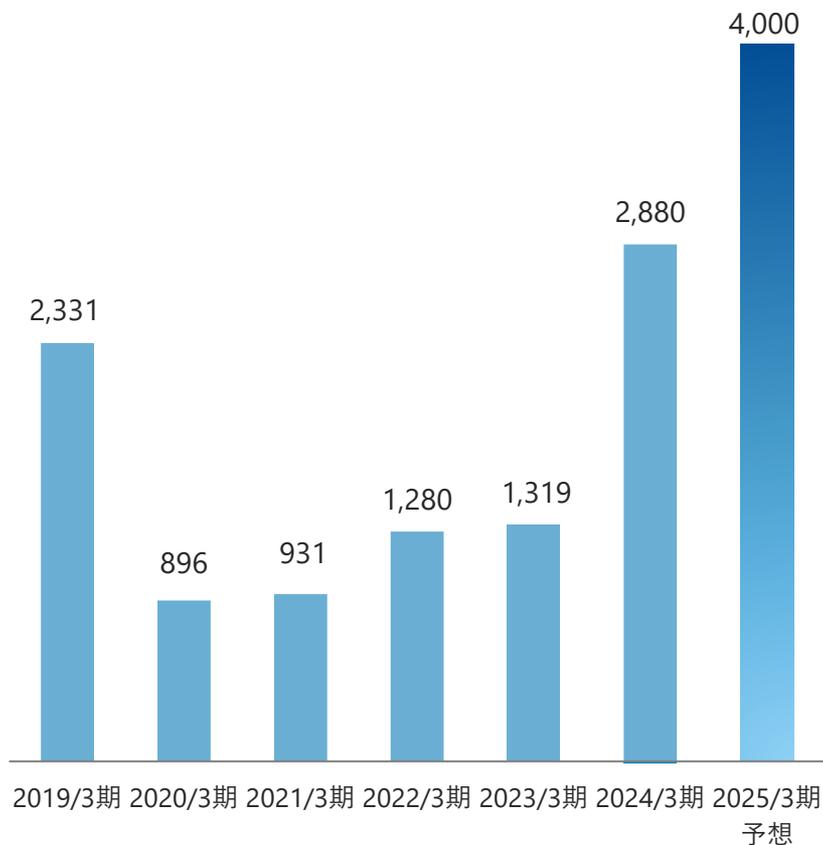


- プラスチック成形事業は自動車関連部品が堅調に推移することや、プリンター部品の回復により増収を予想
- 精密プレス部品事業は医療機器部品等の増収に加え、価格改定効果が通期寄与するため増益、黒字転換を予想
- プリント基板事業は中国向けの減少により減収減益を予想

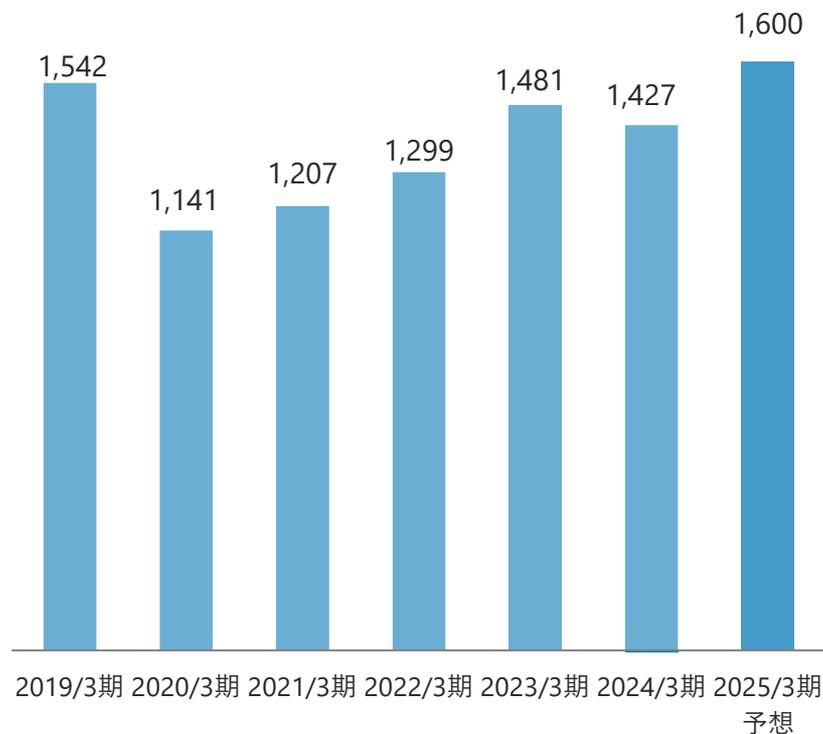
(百万円)	2024/3期		2025/3期		期比較	
	実績	売上比(%)	予想	売上比(%)	前年比(%)	売上比増(pt)
売上高	26,315	100.0	26,700	100.0	+1.5	2.3
プラスチック成形事業	25,008	95.0	25,350	94.9	+1.4	△0.1
精密プレス部品事業	1,064	4.0	1,130	4.2	+6.1	+0.2
プリント基板事業	332	1.3	300	1.1	△9.6	△0.2
調整額	△89	-	△80	-	-	-
営業利益	1,827	6.9	1,900	7.1	+4.0	+0.2
プラスチック成形事業	1,764	7.1	1,850	7.3	+4.9	+0.2
精密プレス部品事業	△0	△0.1	15	1.3	-	+1.4
プリント基板事業	63	19.2	35	11.7	△45.2	△7.5
調整額	0	-	0	-		

- 2024年3月期の設備投資はプラスチック成形事業の生産能力拡充を中心に28.8億円、このうち各務原新工場への投資が14.7億円
- 2025年3月期もプラスチック成形事業中心に40億円の設備投資を計画、うち各務原新工場への投資は20億円を予定

設備投資

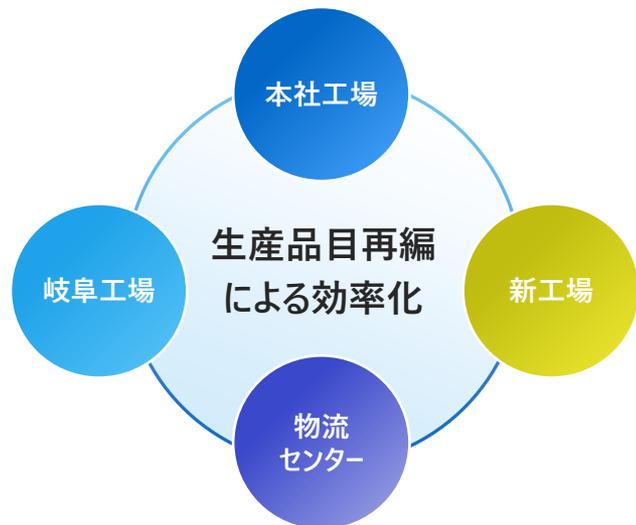


減価償却費



各務原に新工場建設

- HEV・EVなど自動車関連部品の受注増加に備えて、樹脂成形から組立まで一貫生産する新工場を建設
- 新工場は本社から直線距離で500mの工業団地内に建設、2024年度末稼働予定
- 既存の本社工場や岐阜工場も含めて生產品目を再編、物流センターも統合し、生産や物流の効率化を図る



新工場の概要	主な生產品目
総投資額（概算）	35億円
着工	2024年1月
稼働	2024年度末
工場床面積	9,624㎡
事業内容	樹脂成形・組立 (第2期で二次加工も追加)
生產品目	ECUケース等の自動車用部品等



Appendix

06

- プラスチック成形事業の設備増強等により有形固定資産が増加、現預金は利益計上や円安による円換算額が増加
- 50.1億円のネット・キャッシュ、自己資本比率も60.9%と財務は健全

(百万円)	2023/3期末	2024/3期末	前期末比増減
流動資産	17,997	19,668	+1,671
(内、現預金)	8,762	10,260	+1,498
(内、受取手形及び売掛金)	5,239	5,228	△10
固定資産	7,943	9,809	+1,866
(内、有形固定資産)	7,271	8,985	+1,714
総資産	25,940	29,478	+3,538
負債	9,717	10,565	+847
(内、有利子負債)	4,862	5,248	+386
純資産	16,222	18,913	+2,690
負債純資産	25,940	29,478	+3,538

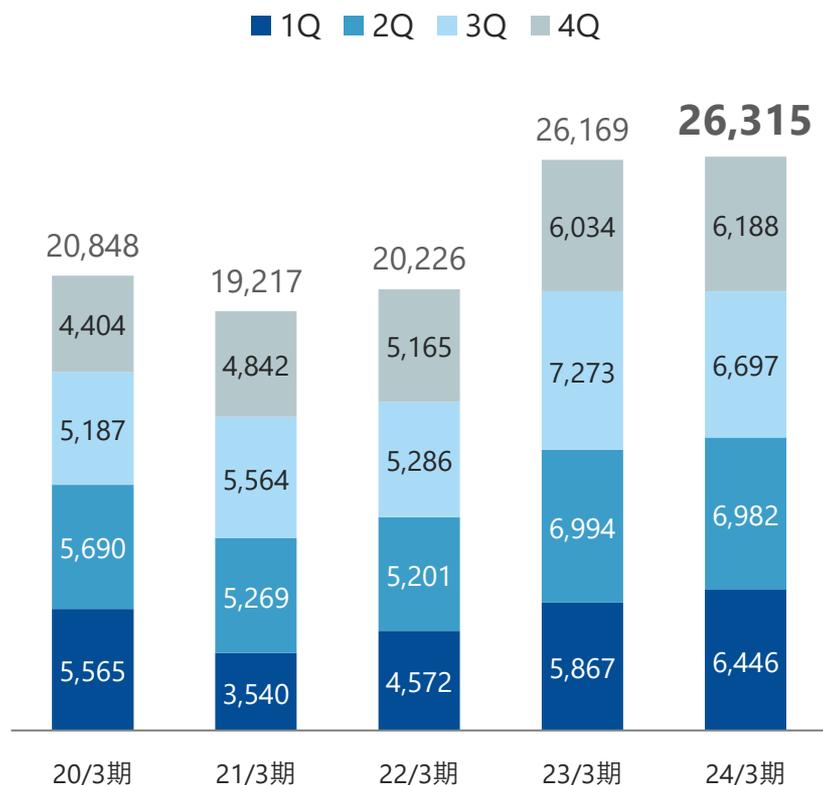
キャッシュ・フロー計算書



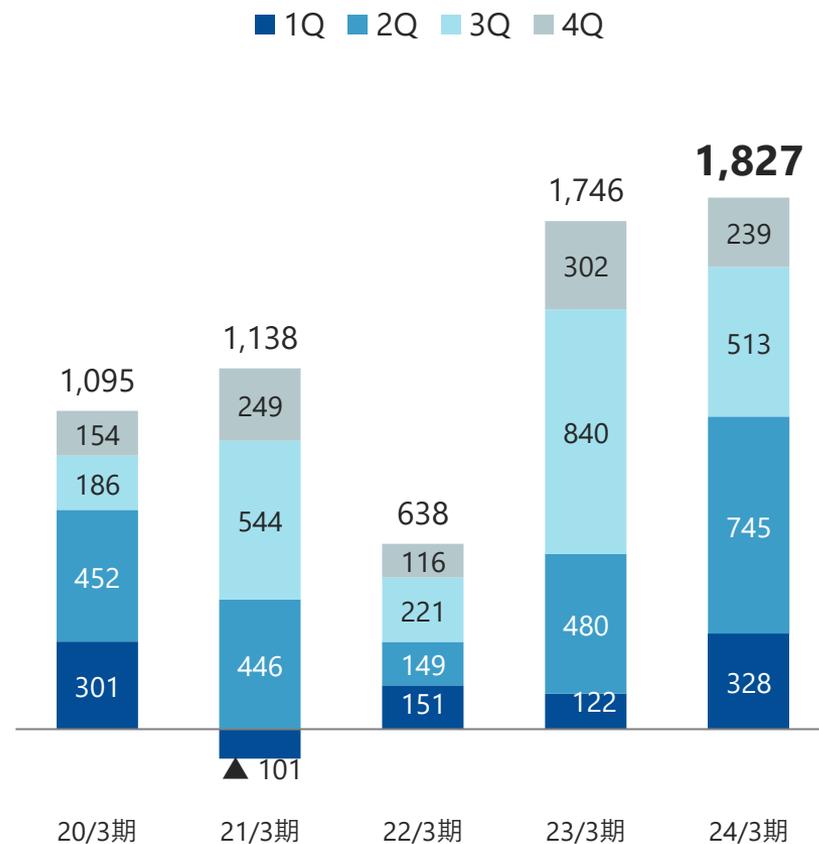
- 営業キャッシュ・フローは38.5億円のプラス、利益の増加などにより前期比でも12.7億円増加
- 一方、新工場建設など設備投資の増加等で投資キャッシュ・フローは40億円のマイナス

(百万円)	2023/3期	2024/3期	前期比増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,588	3,859	+1,271
税金等調整前当期純利益	1,741	2,429	+688
減価償却費	1,480	1,427	△52
売上債権の増減額 (△は増加)	△655	347	+1,002
棚卸資産の増減額 (△は増加)	664	△125	△790
仕入債務の増減額 (△は減少)	△141	15	157
投資活動によるキャッシュ・フロー	△918	△4,001	△3,082
有形固定資産の取得による支出	△1,360	△2,772	△1,412
財務活動によるキャッシュ・フロー	△746	△237	+509
長期借入れによる収入	600	2,200	+1,600
長期借入金の返済による支出	△1,063	△1,185	△121
自己株式の取得により支出	△79	△0	+80
配当金の支払い額	△132	△550	△417
現金及び現金同等物の期末残高	8,026	8,334	+308
フリーキャッシュ・フロー	1,669	△141	△1,811

四半期売上高

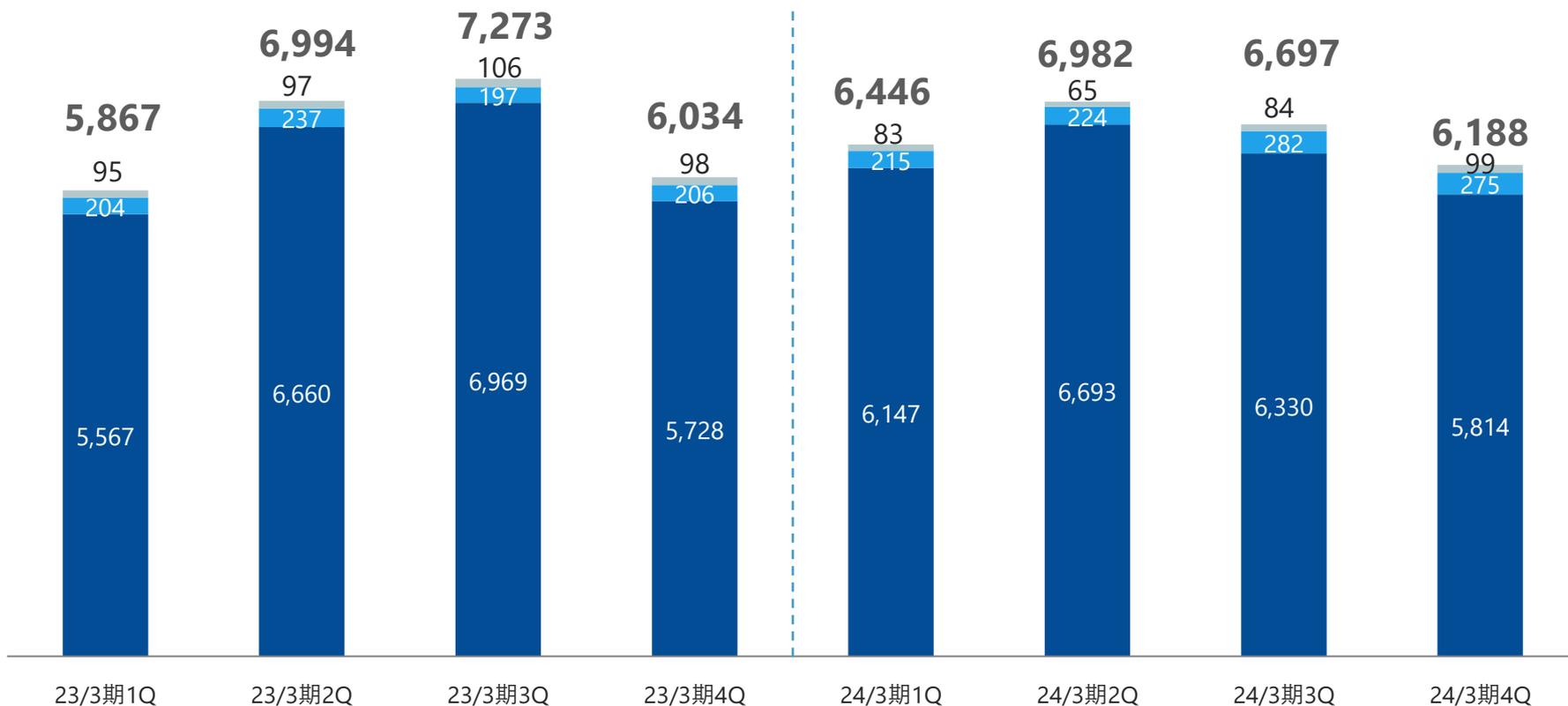


四半期営業利益



セグメント別売上高

■ プラスチック成形事業 ■ 精密プレス事業 ■ プリント基板事業



1970年-1990年代

- 1970年** 株式会社に改組し、武藤合成株式会社を設立
- 1975年** ソニー(株)と取引開始
- 1985年** 東立精工株式会社を吸収合併、金型製造を内製化。商号をムトー精工株式会社へ変更
- 1988年** 株式会社花田製作所を吸収合併。金型部門を拡充
- 1995年** 子会社ムトーベトナムCO.,LTD.設立(現・連結子会社)



2000年代

- 2000年** 子会社ムトーシンガポールPTE LTD設立(現・連結子会社)
- 2003年** 子会社大英エレクトロニクス(株)を買収(現・連結子会社)
- 2004年** ジャスダック証券取引に株式を上場
- 2005年** 子会社ムトーテクノロジーハノイCO.,LTD設立(現・連結子会社)
子会社武藤香港有限公司設立(現・連結子会社)
- 2007年** 子会社タチバナ精機(株)・ハントンスプリングインダストリーズSDN.BHD.を買収(現・連結子会社)



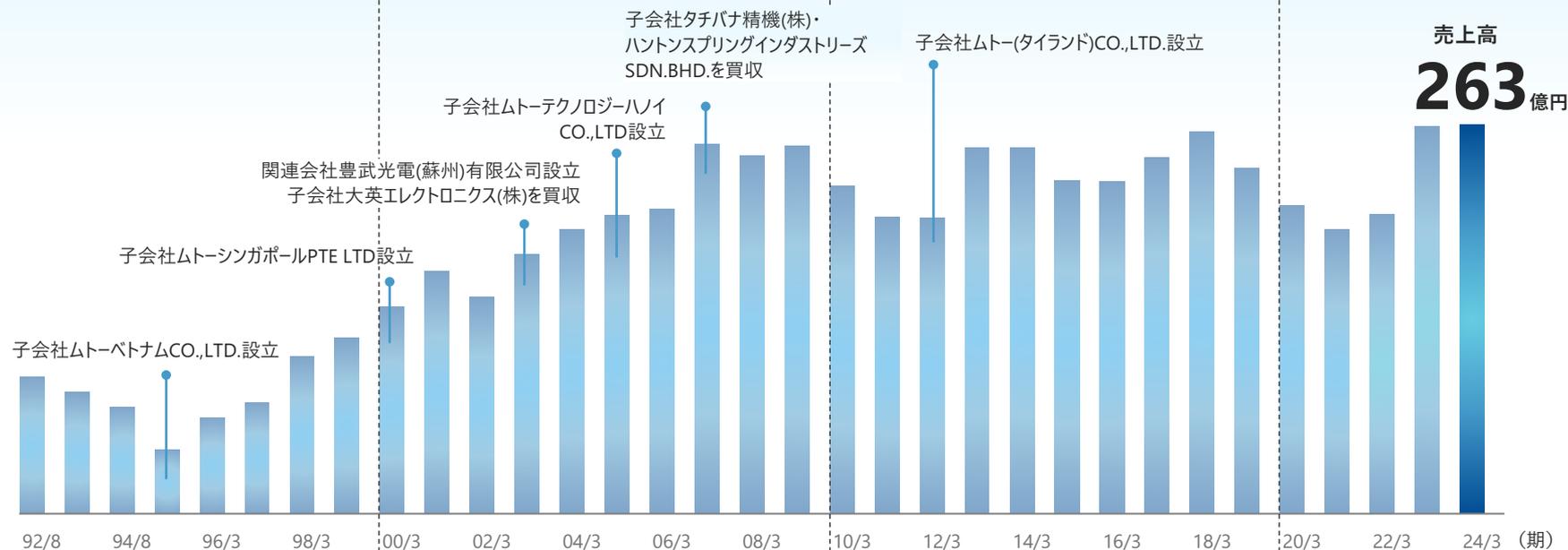
2010年代

- 2010年** 大阪証券取引所 JASDAQ(スタンダード)に株式上場
- 2012年** 子会社ムトー(タイランド)CO.,LTD.設立(現・連結子会社)



2020年代

- 2022年** 東京証券取引所の市場区分見直しにより、スタンダード市場へ移行
- 2024年** 各務原に新工場建設開始



本資料に関するお問い合わせ

本資料のいかなる情報も、弊社株式の購入や売却などを勧誘するものではありません。
また、本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点での弊社の判断であり、その正確性を保証するものではなく、今後、予告なしに変更される事があります。
万が一この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、弊社及び情報提供者は一切責任を負いませんのでご承知おきください。

ムトー精工株式会社
取締役 財務担当
金子 貞夫

T E L 058-371-1100

E-MAIL contact@muto.co.jp

U R L <https://www.muto.co.jp/>